

飼料用米給与による離乳子豚の発育不揃いの低減

研究のねらい

近年、豚の繁殖能力の改良が進み一腹産子数の増加が期待される一方で、子豚の生時体重のバラツキに起因した発育の不揃いが懸念されています。特に、離乳時体重はその後の肥育期間全体に影響を及ぼすことが知られています。

当場はこれまでの研究で、トウモロコシの代替に飼料用米を配合した飼料を離乳子豚に給与すると、良好な発育成績が得られることを明らかにしました。

そこで、飼料用米の新たな利用法として、離乳子豚の発育改善と一腹産子の斉一性を向上させる技術について検討しました。

技術の特徴

離乳子豚用飼料のトウモロコシを飼料用米で代替すると、離乳時体重の小さい子豚の発育を改善する傾向が見られ、一腹産子の発育のバラツキを抑制する効果が期待できます。

1 試験方法

トウモロコシを 50 % 配合した飼料を対照として、トウモロコシを飼料用米で全量代替した飼料を離乳時体重の大小異なる子豚に 3 ~ 6 週齢の間給与しました。

2 試験結果

- (1) 離乳時体重の大きな子豚はトウモロコシ配合飼料給与の発育が勝りましたが、小さな子豚では飼料用米配合飼料給与の発育が勝る傾向が見られました (図 1)。
- (2) 飼料摂取量は発育とともに増加し、体重の小さな子豚では飼料用米配合飼料の摂取量が多くなりました (図 2)。
- (3) トウモロコシ配合飼料では週齢の進行に伴い体重差が拡大する傾向が見られま

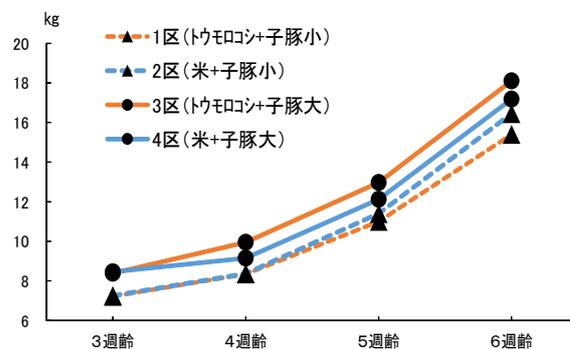


図1 体重の推移

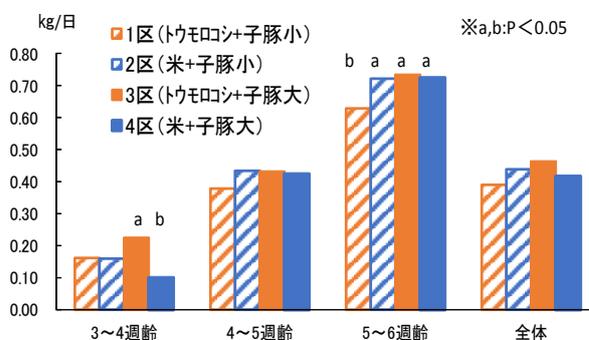


図2 飼料摂取量の推移

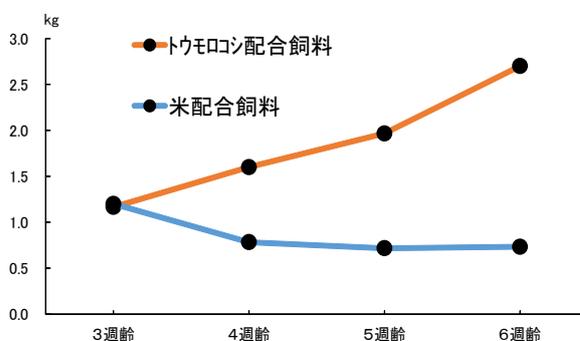


図3 体重差の推移

したが、飼料用米配合飼料はほぼ一定の体重差で推移しました (図 3)。

今後の取り組み

今後は酵素との組合せについて検討し、さらに飼料用米の利用効率を向上させた子豚の斉一性向上技術の開発に取り組む予定です。

(執筆者：青木 圭)